

大学生の英語の学習観と学習方略，学習行動，学習時間との関連

金子 功 一 植草学園大学発達教育学部
長谷川 修 治 植草学園大学発達教育学部

大学生の英語の学習観と学習方略，学習行動，学習時間との関連

金子 功一^[1]，長谷川 修治^[1]

[1] 植草学園大学発達教育学部

本研究では，大学生 228 名（男性：60 名；女性：168 名）を対象に，英語学習における学習観の「教科共通の学習観」と「教科固有の学習観」，学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」，学習行動の「学習の持続性欠如」，学習時間の「定期試験前の学習時間」に関するオンライン調査を行った。その結果，学習行動の「学習の持続性欠如」は，教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」，学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」，「定期試験前の学習時間」とそれぞれ有意な負の関係が示された。また，学習方略の「メタ認知的方略」は学習行動の「学習の持続性欠如」を抑制することが示された。本研究の結果より，大学生の学習行動を改善するためには，学習観や学習方略の両観点から考慮した教育実践的な介入の必要性が示された。

キーワード：英語，学習観，学習方略，学習行動，学習時間

1. はじめに

近年，学校教育を取り巻く英語の学習環境は目まぐるしく変化している。学習指導要領では，「聴くこと」や「話すこと」に関する事項が明記された（文部科学省，2011）。また，2021 年より実施されている大学共通テストの英語では，コミュニケーション能力や情報処理能力が問われる実用英語に関する問題が出題されている（4skills，2022）。

教育心理学に関する研究において，学習者の学業達成のために，有効な学習方略の使用を促す要因を検討することは大きな課題である（赤松，2017）。先行研究では，学習方略を規定する要因を明らかにする試みが数多くなされてきた（Pintrich & De Groot，1990 et al.）。これらの要因の中でも本研究では，学習者のもつ信念である「学習観」に着目する（篠ヶ谷，2012）。

学習者のもつ信念について，認識論的信念（Schommer，1990）を取り上げた研究が多く見られる。Schommer，Crouse，& Rhodes（1992）は，認識論的信念が直接的に学業成績を規定しつつ，学習方略を介して間接的に学業成績を規定することを示

している。

先述の認識論的信念の研究において，英語学習における学習観は，学習領域共通に関する信念と学習領域固有に関する信念があることが示されている（植木，2002）。そして，先行研究では，領域共通か領域固有かという信念の違いにより，学習の諸要因への影響性が異なることが示唆されている。赤松（2017）は，英語学習における学習観は，学習領域共通（以下：教科共通）に関する信念「学習量志向（学習量を重視する）」と「方略志向（学習方法を重視する）」，及び学習領域固有（以下：教科固有）に関する信念は「伝統志向（日本語から英語への書き換えや暗記を重視する）」と「活用志向（聴くことや話すこと，日常生活における英語の使用を重視する）」から捉えられることを示し，それらの信念が学習方略や学業成績にどのような影響を及ぼすかについて検討している。また，赤松（2017）では，教科共通の信念である「学習量志向」は，英語学習を単語や文法事項をたくさん覚えることと捉える「伝統志向」との関連が示されている。さらに「方略志向」は，英語の日常利用や会話での活用という具体的な学習方法を重視する「活用志向」との関連が示され

ている。こうした先行研究の知見を踏まえて，本研究では，赤松（2017）の英語学習における学習観を用いて，学習方略などとの関連について検討する。

学習方略とは「学習の効果を高めることを目指して意図的に行なう心的操作あるいは活動」と定義されており（辰野，1997），主にメタ認知方略と認知的方略，外的リソース方略の3つのカテゴリーに分類されている（佐藤，2004）。

英語の学習方略において，Oxford（1990 宍戸・伴訳，1994）は，SILL（Strategy Inventory of language Learning）を作成している。SILLでは，英語の学習方略は，英単語の記憶をはじめとする認知的処理に間接的に関わる社会的方略とメタ認知的方略に分類され，自己の学習行動に働きかけたり，動機づけを促進したりする役割をもつとされている。伊藤（2012）は，社会的方略を含む動機づけ的側面の自己調整学習方略が動機づけを高め，メタ認知的方略のような自己調整学習方略が学業成績を規定する可能性を示唆している。また，社会的方略とメタ認知的方略は，学習の持続性や学習行動を調整する役割があるという研究知見も示されている（伊藤・進藤，2003；梅本，2013）。こうした知見から学習観との関連において，学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」を用いて，それらの関連を検討する。

さて，学習を捉えるためには，「学習をどのように捉えるか」といった学習観や「どのように学習するか」といった学習の「質」に関する指標だけでなく，「どれくらい学習したか」といった学習の「量」に関する指標にも着目する必要がある。先行研究では，学習方略と学習行動（梅本・矢田，2014）やメタ認知的方略と学習時間（Son & Metcalfe，2000）についての関連が検討されてきた。ただし，学習観や学習方略，学習行動，学習時間との関連を検討した先行研究は少ない。そこで本研究では，学習行動として「学習の持続性欠如」に関する指標，学習時間として高校時の「定期試験前の学習時間」を捉えるための実態調査を行う。なお本研究では，大学生を対象とした調査を実施する。大学生は小中高校生に比べて，自分自身の勉強場면을客観的に振り返ることができ，また普段の勉強場面において，学習方略を工夫し使用していると考えられる。

以上の知見から本研究では，大学生を対象に，英

語学習における学習観（教科共通の学習観「学習量志向と方略志向」，教科固有の学習観「活用志向と伝統志向」）や学習方略（「社会的方略」や「メタ認知的方略」），学習行動（「学習の持続性欠如」）の指標，及び高校時の「定期試験前の学習時間」に関する実態調査を行い，学習観と学習方略が学習行動や学習時間にどのような影響を及ぼすかについて検討することを目的とする。

2. 方法

1) 調査時期と方法

2022年4月から7月に，Googleフォームによるオンライン調査を実施した。

2) 調査対象者

A・B大学の学生228名（男性：60名；女性：168名 $M=18.18$ 歳 ($SD=.448$)) を対象とした。

3) 倫理的配慮

大学の講義終了後，本調査では，①授業の成績には関係がないこと。②無記名による回答を求めており，統計的に処理されるため，個人が特定されないこと。③調査の参加は自由意志であること。④調査結果は研究発表や論文誌に掲載される可能性があることを口頭で説明後，Googleフォームの冒頭文にも記述した。

4) 調査内容

- ① 教科共通の学習観：学習量志向6項目，方略志向6項目（赤松，2017）7件法。
- ② 教科固有の学習観：活用志向6項目，伝統志向6項目（赤松，2017）7件法。
- ③ 学習方略：社会的方略7項目，メタ認知的方略6項目（赤松，2017）（7件法）。
- ④ 学習行動：学習の持続性欠如5項目（梅本・田中，2012）4件法。
- ⑤ 学習時間：高校時の学習時間を振り返り，定期試験前の学習時間について回答を求めた（例：(1) 2時間30分，(2) 1時間，(3) 30分，を参考として具体的な時間を1つ記述させた）。
教示文について，①は「あなたの勉強に対する考

え方についてお聞きします」, ②と③は「あなたの英語の勉強に対する考え方についてお聞きします」, ④は「あなたの普段の勉強への取り組み方についてお聞きします」とした。

各尺度の評定は, ①と②は「1. 全くそう思わない～7. 全くその通りだと思う」7件法, ③は「1. ほとんど使わない～7. とてもよく使う」7件法, ④は「1. 全くあてはまらない～4. よくあてはまる」4件法を用いた。

分析では, IBM SPSS Statistics 27 を用いた。

3. 結果と考察

1) 記述統計と信頼性係数

各尺度の記述統計について, 平均値 (Mean) と標準偏差 (SD) を求めた (表 1)。また, 各尺度の信頼性係数 (α 係数) を算出したところ, 全ての尺度で .71 以上であったことから, 内的一貫性に問題がないと判断した。分析では尺度得点が高いほど大きくなるように加算し, それを項目数で割った平均評定値を尺度得点とした。

2) 性差

教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」, 教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」, 学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」, 学習行動の「学習の持続性欠如」, 高校時の「定期試験前の学習時間」について, 性差を検討するため, t 検定を行った。その結果, 教科共通の学習観の「学習量志向 ($t(226) = 2.42, p < .05$)」と「定期試験前の学習時間 ($t(226) = -2.61, p < .01$)」において, 男性よりも女性の方が有意に高いことが示された。

3) 相関分析

教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」, 教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」, 学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」, 学習行動の「学習の持続性欠如」, 高校時の「定期試験前の学習時間」との相関分析を行った (表 1)。その結果, 「学習の持続性欠如」は, 教科共通の学習観の「学習量志向 ($r = -.18 (p < .01)$)」と「方略志向 ($-.14 (p < .05)$)」, 学習方略の「社会的方略 ($-.19 (p < .01)$)」と「メタ認知的方略 ($-.41 (p < .01)$)」, 高校時の「定期試験前の学習時間 ($-.21 (p < .01)$)」とそれぞれ有意な負の相関があった。一方, 学習行動の「学習の持続性欠如」は, 教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」との間に有意な差は見られなかった。また, 高校時の「定期試験前の学習時間」は, 教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」, 教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」, 学習方略の「メタ認知的方略」との間に有意な差は見られなかった。

4) 重回帰分析

教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」, 教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」を独立変数, 「学習の持続性欠如」, 「定期試験前の学習時間」を従属変数とする重回帰分析を行った (表 2)。決定係数は「学習の持続性欠如」のみ有意 ($R^2 = .20 (p < .01)$) であった。その結果, 「メタ認知的方略」から「学習の持続性欠如 ($\beta = -.52, p < .01$)」に有意な負の影響が示された。また, 決定係数は有意ではないものの「社会的方略」から「定期試験前の学習時間 ($\beta = .22, p < .05$)」に有意な正の影響が示された。

表 1 学習観と学習方略, 学習行動, 学習時間の記述統計と α 係数, 相関分析結果 (N=228)

	M (SD)	α 係数	1	2	3	4	5	6	7
1 学習量志向	5.17 (.92)	.80	—						
2 方略志向	5.85 (.69)	.71	.48**	—					
3 活用志向	5.83 (.75)	.80	.35**	.62**	—				
4 伝統志向	5.03 (.94)	.79	.51**	.35**	.35**	—			
5 社会的方略	4.76 (1.21)	.85	.35**	.23**	.33**	.32**	—		
6 メタ認知的方略	4.73 (1.15)	.87	.48**	.40**	.38**	.39**	.65**	—	
7 学習の持続性欠如	2.85 (.53)	.76	-.18**	-.14*	-.05	-.08	-.19**	-.41**	—
8 定期試験前の学習時間	2.68 (1.88)		.02	.06	.03	.05	.18*	.10	-.21**

* $p < .05$, ** $p < .01$

表2 学習観と学習方略が学習行動，学習時間に及ぼす影響

	学習の持続性欠如	定期試験前の学習時間
学習量志向	-.03	-.07
方略志向	-.06	.09
活用志向	.13	-.07
伝統志向	.08	.02
社会的方略	.11	.22*
メタ認知的方略	-.52**	-.03
決定係数	.20**	.04

* $p < .05$, ** $p < .01$ で有意を示す。

4. 総合考察

本研究では，大学生を対象に，英語学習における学習観や学習方略，学習行動，及び高校時の定期試験前の学習時間に関する実態調査を行い，学習観や学習方略が学習行動，学習時間にどのような影響を与えるかについて明らかにすることを目的として調査を行った。

1) 性差の結果

教科共通の学習観，教科固有の学習観，学習方略，学習行動，定期試験前の学習時間について，性差の検討を行った。その結果，教科共通の学習観の「学習量志向」と「定期試験前の学習時間」において，男性よりも女性の方が有意に高いことが示された。

英語学習における学習方略の使用について，中高生を対象にした研究では，同程度の英語力を有する場合でも，男性よりも女性の方が多様な学習方略を積極的に使用していることが示されている（平野ら，2001；前田，2003）。また，学習動機に関する高学年の児童を対象にした研究では，英語の学習動機の4要因のうち，「有用性」，「内発的」，「不安回避」の3要因で，男性よりも女性の方が有意に高いことが示されている（林原，2013）。今後は，本研究で示された性差について詳細に検討したいと考える。

2) 相関分析結果

教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」，教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」，学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」，学習行動の「学習の持続性欠如」，高校時の「定期試験前の学習時間」との相関分析を行った。その結

果，教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」，学習方略の「社会的方略」と「メタ認知的方略」は，学習行動の「学習の持続性欠如」を抑制することが示された。一方，学習行動の「学習の持続性欠如」と教科固有の学習観の「活用志向」や「伝統志向」との関連が見いだされなかった。

本研究の結果から，教育実践場面において，教科共通の学習観と学習方略の「社会的方略」や「メタ認知的方略」の学習方略を見直すなどの介入を行う重要性が示唆された。具体的な教育実践的な介入方法として，英語が苦手な学生の学習行動を促すためには，英語が得意な学生と一緒に勉強をしたり，テスト前に問題を出し合ったりしながら，英語の勉強方法の見直しやテストまでの計画を立てたりするなどが必要だろう。その上で，教科共通の学習観の「学習量志向」や「方略志向」を意識させながら，学生自身の学習観を振り返ったり，変容を促したりするなどの支援的な介入も有効であると考えられる（植木，2004）。

3) 重回帰分析結果

教科共通の学習観の「学習量志向」と「方略志向」，教科固有の学習観の「活用志向」と「伝統志向」を独立変数，学習行動の「学習の持続性欠如」，高校時の「定期試験前の学習時間」を従属変数とする重回帰分析を行った。その結果，学習方略の「メタ認知的方略」は学習行動の「学習の持続性欠如」を抑制させることが示された。本研究の結果と同様に，「メタ認知的方略」は「学習の持続性欠如」を抑制することが示唆されている（梅本，2013）。適切なメタ認知的方略を使用する学生はモニタリングすることにより，勉強のやり方を修正しようとする

大学生の英語の学習観と学習方略，学習行動，学習時間との関連

- beliefs and mathematical text comprehension: Believing it is simple does not make it so. *Journal of Educational Psychology*, **84**, 435-443.
- 篠ヶ谷圭太 (2012). 学習方略研究の展開と展望：学習フェイズの関連づけの観点から 教育心理学研究, 60, 92-105.
- Son, L. K., & Metcalfe, J. (2000). Metacognitive and control strategies in study-time allocation. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, **26**(1), 204-221.
- 辰野千壽 (1997). 学習方略の心理学：賢い学習者の育て方 図書文化社.
- 梅本貴豊 (2013). メタ認知的方略，動機づけ調整方略が認知的方略，学習の持続性に与える影響 日本教育工学会論文誌, **37**, 79-87.
- 梅本貴豊・矢田尚也 (2014). 認知的方略，動機づけ調整方略とテスト学習時間の関連 日本教育工学会論文誌, **38**, 167-175.
- 植木理恵 (2002). 高校生の学習観の構造 教育心理学研究, **50**, 301-310.
- 植木理恵 (2004). 自己モニタリング方略の定着にはどのような指導が必要か：学習観と方略知識に着目して 教育心理学研究, **52**, 277-286.

資料1：教科共通の学習観（植木，2002）の項目内容

1) 学習量志向

1 日何時間と決めてコツコツと勉強していれば，いつかは報われる。
とにかく根性をもって頑張り続けることが効果的だ。
同じことを繰り返しているうちに，いつの間にかそれが身につく。
勉強ができるできないは，勉強した量に比例する。
たくさんの量を積み重ねることが効果的だ。
時間をかけて勉強することが効果的だ。

2) 方略志向

勉強ができる人は，勉強のやり方がうまい人だ。
人それぞれ，自分にあった勉強方法を工夫した方が効果的だ。
勉強する前に，どういうふうにしたらうまくいくか考える必要がある。
どう勉強したら成績が上がるか，ということを考えるのは効果的だ。
勉強のしかたは自分で変えていくと効果がある。
成績の良い人は要領（ようりょう）がよい。

資料2：教科固有の学習観（赤松，2017）の項目内容

1) 活用志向

英語の勉強では，学習した表現を実際の会話に用いてみることは効果的だ。
英語の勉強では，英語で表記された本や新聞を読むことは効果がある。
英語を学習するうえで，ネイティブの人が話す音声を聴くことは効果的だ。
英語が上達するためには間違いを恐れないことが大切だと思う。
英語ができるようになるためには英語を口に出してしゃべる練習は大切だと思う。

2) 伝統志向

英語を学習することは主に文法規則をたくさん覚えることである。
英語を学習することは主に新しい単語をたくさん覚えることである。
英語を学ぶことは主に日本語を英語に翻訳することである。
英語ができるようになるということは，文法が完璧にわかるようになることだ。
英語を学習するうえで，文法的に理解することは重要である。

資料3：学習方略（赤松，2017）の項目内容

1) 社会的方略

- 英語が得意な人に助けてくれるように頼む。
- 友達と一緒に英語を勉強する。
- テスト前に問題を出し合う。
- 英語に関する興味ある内容について話し合う。
- わからない英語の問題を友人と一緒に考えたり調べたりする。
- お互い得意なことを教え合う。
- クイズ形式やかえ歌など，友人と一緒に英語の勉強のしかたを工夫する。

2) メタ認知的方略

- 自分の英語の力を向上させるためにはっきりとした目標を持つ。
 - 英語を勉強する十分な時間を作るために学習の計画を立てる。
 - スケジュールを立て英語の学習に十分時間をあてる。
 - 自分の英語の間違いに気づき，そこから学んで上達しようと努力する。
 - よりよい英語の勉強の仕方を見出そうとしている。
 - 自分の英語学習の進み具合について考えたりする。
-

資料4：学習の持続性欠如（梅本・田中，2012）の項目内容

- 飽きて勉強をやめることが多い
 - できるだけ勉強を続ける*
 - すぐに疲れて（勉強を）やめることが多い
 - ねばり強く勉強に取り組む*
 - ほかに面白いことがあると，勉強をやめてしまう
-

*は逆転項目を示す

Abstract

University students' views on learning English in relation to learning strategies, learning behavior, and study time

Koichi KANEKO^[1], Shuji HASEGAWA^[1]

[1] Faculty of Child Development and Education, Uekusa Gakuen University

In this study, 228 university students (male: 60; female: 168) were asked using an online survey to examine their views on learning English with regards to “learning views common to all subjects” and “learning views peculiar to subjects,” “social learning” and “metacognitive” learning strategies, “lack of persistence of learning”, and “learning time before regular exams” aspects of learning behavior. As a result, the “lack of persistence of learning” aspect of learning behavior was found to be related to “amount-oriented” and “strategy-oriented” learning views common to all subjects, “social” and “metacognitive” learning strategies, and “regular learning”. A significant negative relationship was shown for study time before the test. In addition, it was shown that the “meta-cognitive” learning strategy suppresses “lack of persistence in learning”. The results of this study indicated the need for practical educational interventions that take into account both perspectives on learning and learning strategies in order to improve the learning behavior of university students.

Keywords: English, Learning perspective, Learning strategy, Learning behavior, Learning time